



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／佐藤 優子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事
大島 功央 島根県津和野町教育委員会 派遣社会教育主事

分科会の進め方

13:30～13:35

1 「体験機会の創造」と「基礎学習サポート」を組み合わせた 「放課後チャレンジ教室」

13:35～14:05

萱島 かよ(大分県国東市) 国東市協育ネットワーク コーディネーター

国東市では、子どもの「居場所」と「体験」を重視する「放課後子ども教室」（12年目）と補習や基礎基本の学習サポートを中心とする「放課後遊びの教室」（6年目）の2本立てで「放課後チャレンジ教室」を展開している。前者は各4小学校で月1回、年11回の「ゆめさき体験スクール」として実施している。後者は「子ども教室」を実施しない水曜日で年30回、さらに長期休暇中を含む土曜日は年12回、合計42回の実施である。後者の活動は国語・算数を中心に退職教職者や地域の有志、高校生などが指導に当たっている。地域による学校支援活動として文部科学大臣表彰を受けている。

2 「母なる海を守る会」の「協働」戦略 ～一人から始まり、850人を繋いだ「クリーンビーチ作戦」～

14:10～14:40

島寿 一明(山口県長門市) 「母なる海を守る会」 会長

森田 和康(山口県長門市) 油谷中央公民館 前館長

油谷の大浦海岸は本州の西北端に位置している。それゆえ、潮が運ぶゴミが国内外から漂着する。美しい海を慕って移住してきたIターンの住民が独りで始めたゴミ拾いは、平成20年に「クリーンビーチ大作戦」に発展し、平成24年には、850人の賛同者を集めるまでに成長した。「大作戦」と平行して「母なる海を守る会」も組織化され、広報活動や参加者へのもてなしの工夫などさまざまな協働事業を模索した結果、海岸清掃の全国組織との連携、ダイビング団体と連携した海底ゴミの回収、漂着ゴミや森林保全に関するシンポジュームの開催などのプログラムに発展している。

ティータイム

14:40～15:05

3 ふるさとを知り、ふるさとを学ぶ総合的学習の学社連携 ～「高千穂大好きプロジェクト」～

15:05～15:35

橋本 香織(宮崎県高千穂町) 高千穂町立高千穂小学校 指導教諭

学校の総合的学習の時間にJA青年部・女性部、商工会女性部など地域の方々の応援を頂くようになって、図らずも学社連携、学民融合の企画になり、子どもにとってはキャリア教育も含めた異世代交流の機会にもなった。プログラムの中身は、「米づくり」、「神楽」、「大豆の栽培」、各種の「ふるさと料理」などであるが、子どもは巧まずして、少子高齢化や後継者不足のふるさとの現状を学ぶことにも繋がった。PTAやJAの予算を活用し田んぼも畠も借りたが、同時に学校施設も提供し、両者がwin-winの関係になれるよう配慮した。

4 「大莞少年消防クラブ」26年の伝統と社会参画

15:40～16:10

北原 幸則(福岡県大木町) 大木町消防団第3分団 前部長

大莞少年消防クラブの最大の特徴は、大莞小の5・6年生全員が入会していることと26年の歴史があることである。このクラブは大木町消防団の第3分団が指導に当たり、防火啓発は元より、青少年の健全育成、愛郷心の涵養を目的として活動を展開している。プログラムは、「大莞若獅子まとい太鼓」の継承、規律の訓練、消防署活動の見学などで、主要な地域行事に参加し、練習成果を発表している。平成10年総務省消防庁の「少年消防クラブフレンドシップ'99」において優良クラブの表彰を受けている。